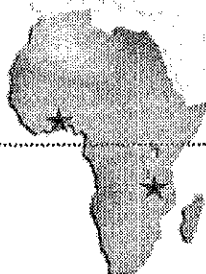


III 実践報告書



● ガーナコース研修参加者

- (1) 羽島市立竹鼻中学校／上手留実子さん 139
- (2) 愛知県立豊田東高等学校／高野純子さん 145
- (3) 津幡町立条南小学校／坂本久美さん 150
- (4) 富山県立氷見高等学校／高田正光さん 158
- (5) 高岡市立博労小学校／谷口徹さん 165
- (6) 静岡市立高等学校／寺田仁さん 172
- (7) 金沢市立港中学校／中谷司さん 179
- (8) 三重県立白子高等学校／花房範子さん 185
- (9) 名古屋市立自由ヶ丘小学校／松川弥生さん 191
- (10) 島田市立島田第三小学校／渡邊三知子さん 196

● マラウイコース研修参加者

- (11) 金沢市立大徳小学校／今井由美子さん 204
- (12) 八尾町立杉原小学校／岩脇達典さん 211
- (13) 津島市立西小学校／賀島美恵子さん 216
- (14) 名古屋市立長須賀小学校／金森美津子さん 222
- (15) 石川県立金沢中央高等学校／河上康一さん 228
- (16) 岐阜県立恵那農業高等学校／木村友美さん 232
- (17) 武豊町立武豊小学校／榊原喜子さん 245
- (18) 名古屋市立中央高等学校／鈴木富雄さん 252
- (19) 私立光ヶ丘女子高等学校／田中千賀子さん 258
- (20) 静岡県立富士養護学校／田邊愉美子さん 264
- (21) 伊勢市立宮川中学校／中津俊彦さん 268
- (22) 金沢市立兼六中学校／福島直美さん 276
- (23) 鯖江市立吉川小学校／松山純子さん 282
- (24) 三重県立桑名高等学校／水野悟さん 288

平成 16 年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ共和国）実践報告書

1. タイトル 「自己の確立」と「共生」を目指して

2. 氏名 上手 留実子

学校名 岐阜県羽島市立竹鼻中学校

担当教科 数学

3. 実践教科 総合的な学習の時間

時間数 40 時間

4. 対象生徒・学年 中学 3 年生

対象人数 196 名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

地球の仲間について知り、さらに地球の抱えるいろいろな問題について知り、地球市民として「持続可能な開発を進めていくにはどうしたらよいか」考え、実行に移そうとする態度を育てる。

(2) 授業の構成案

40 時間の「国際理解学習」を大きく 5 つのユニットに分けた。

- | |
|--|
| (1) 総合ガイダンスでこれからの学習の見通しを持つ (6~7 月・夏休み) |
| (2) 自分たちの国の生活・文化をリサーチし、それを海外に向けて発信する (9 月) |
| (3) 地球に住む仲間を知る (9~10 月) |
| (4) 地球上の問題を見つめる (10~12 月) |
| (5) 地球規模の価値観に切り替える・自分たちにできることを考え実行に移す (12 月~2 月) |

~この中の (3) と (4) のあたりの実践についての授業の構成案~

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
17 時限 ☆「地球の数」字から、いろいろな問題について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 「地球の数字ゲーム」に班毎に取り組む 感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 地球の数字ゲーム問題 取り組み表 振り返り用紙
18~19 時限 ☆日本と世界のつながりを知ろう (新聞と広告から) ・日本といろいろな世界とのつながりを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 班毎に新聞記事に出てきた国名や、広告用紙に掲載された食品の輸入先の国名を白地図に記入していき、日本と世界とのつながりを知る。(食べ物や記事の内容の絵を書くのもいい) 白地図への記入を終えての感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞や広告 1 週間分 世界白地図を各班に 2 枚 地理的な条件を確認するための地図帳 振り返り用紙
20~21 時限 ☆いろいろな国や物の多様性について知ろう ・1 つの国でもいろいろな面	<ul style="list-style-type: none"> 各班毎に開発途上国の写真を 1 枚ずつ配布し、そこから読み取れることを書かせ、交流していく。最後は 5 枚の写真から読み取る。 感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> JICA フォトランゲージキット 画用紙 振り返り用紙
22 時限 ☆ガーナを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ガーナについての紹介 (上手の研修報告) 貧しいけれど豊かな国・ガーナについての紹介 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンデータ パソコン・プロジェクター

<p>23～24時限 ☆JICA出前講座ゲストを迎える準備をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICAについての理解を深める。 ・ 出前講座ゲストの活動された国についての理解を深める ・ 会の進め方の計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICAビデオ ・ 図書館の本 ・ インターネット情報など
<p>25～26時限 ☆開発途上国とそれらの国への日本の支援について知ろう(青年海外協力隊に参加された方々に学ぼう)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA出前講座ゲストの方々から任地国についての紹介(開発途上国についても紹介) ・ 青年海外協力隊に参加されたことなどについての質疑応答(生き方についてなど) ・ お話を聞いての感想をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA出前講座ゲスト ・ パソコン ・ プロジェクター ・ ビデオ ・ 振り返り用紙
<p>27～28時限 ☆世界の子どもたちについて知ろう(ストリートチルドレン・少年兵・児童就労等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界が100人の村だったら」のビデオを観て、世界の子どもたちの実態を知るとともに、今後の課題へとつなげる。 ・ 感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界が100人の村だったら」のビデオ ・ 振り返り用紙

6. 授業の詳細(一部のみ掲載)

①「地球の数字クイズ」・・・1時間(別紙資料)

指導者研修会でいただいた資料の中から「数字」で表されたものを選んでクイズにしたものである。ここでは「数字」から世界のいろいろな諸問題について考えていこうというガイダンスのようなことをねらったが、新しい班でのコミュニケーション作りも兼ねた。グループで考える時間は1分、黒板に書く時間は30秒、一番近い数字から順位をつけて点数化していったせいか、どの学級でもずいぶん盛り上がりを見せた。また、「これまではほとんど知らなかったことが多くあった。これからは、もっと意識しているようなことを見ていきたい。」というような感想が多かった。

②「日本と世界のつながりについて知ろう」・・・2時間

新聞や食料品の広告を通して、世界と自分とのつながりを感じたり、入ってくる情報の偏りに気付いたりすることをねらって行った。それぞれのグループで1週間分ほどの新聞や、産地が記入されている食料品のチラシを準備させた。それらを世界地図の白地図2枚に別々に記入させていった。新聞の記事は知っている国の情報が多いが、チラシに載っている国名は、あまりおなじみでない国もあって、生徒たちにとってはそれが新鮮だったようである。

食料品のチラシで産地名を調べるのは初めてだったが、よく食べているものの中にも輸入品が多いことが分かった。また、よく食べるエビなどもほとんどが外国産だと分かった。今年は台風などの影響か、野菜も中国産などのものも多く見られた。新聞を調べた人たちの地図を見ても、いろいろな国のことが載っていることが分かり日本の中にも世界が入っていることが分かった。でも、どちらかというとなアメリカとかのことが多い。今までは何となく見ていた新聞やチラシだけど、これからはもっと中身もよく見ていきたい

③「いろいろな国や物の多様性について知ろう」：フォトランゲージ・・・2時間

複数の写真から読み取れることを交流しあう中で、1つの国の中だけでもいろいろな面が見られることから、偏った見方をせずいろいろな方面からアプローチをする必要があることをつかませることをねらって行った。各グループに同じ国の写真を5枚ずつ、全部で7セットの開発途上国の写真を準備した。(JICAでいただいたもので7つの国は全て異なるもの) 配布する順番はあらかじめ決めておき、初めは1枚ずつ配布して、そこから読み取れることを班で交流しあい、さらに1枚を追加し、最後に全部を配布して読み取りを行わせ、学級全体で交流しあった。

資料となる写真が豊富にあったことから、どの生徒たちも自分の手にとってそこから分かることを発表できた。また、5枚の写真が同じ国のものであるのに、様々な場面が映し出されていたことから、1つの国であってもいろいろな様相が見られることをつかみ取った。さらにいろいろな国々について知りたいという動機付けにもなった。

④「教師海外研修報告(上手のガーナ研修より)」・・・1時間

ガーナ研修で見聞してきたことを基に、「これからの21世紀を生きる私たちにとって大切なことは何か?」というテーマで1時間の授業を行った。(時間にゆとりのある学級のみ) その内容は以下のようなものだった。

ガーナの実情(地理的条件・自然・生活・文化・歴史・産業・人々など)・ガーナの子どもたち(学校)の様子・ガーナにおける日本人の活躍(青年海外協力隊の方々やJICA事務所の方々)・ガーナで出会った人たちから学んだことなど等。

いろいろな物やビデオなどを見せたり、クイズなどを交えて参加型にしようとしたり、1時間の中でかなり欲張りすぎたため、始めに設定したテーマ「21世紀を生きる私たちにとって大切なことは何か?」をどれだけ意識化できたかは疑問だが、生徒たちはスライドやビデオ、実物などを真剣に観ていた。また、ガーナで出会った高知県葉山村立葉山中学校のみなさんから送っていただいた彼らが創った「ガーナ研修記録」のDVDを一番真剣に観ていた生徒たちは、改めて日本と世界との距離が縮まってきたことをつかんだと思う。

⑤「ゲストの方々(青年海外協力隊OBの方々)を迎えての学習」・・・2時間

11月30日には学年一斉にゲストの方々を教室に迎えての授業を行った。今年も青年海外協力隊で活動してみえた5人の方々に来ていただき、各学級で1時間ずつ二人の方にお話をしていただいた。事前の打ち合わせでは以下の点についてお話くださるようお願いした。

- ・ それぞれの任地国で活動してみえたこと
- ・ それぞれの任地国の様子(特に開発途上国についての情報)
- ・ なぜ、そのような活動に参加されたか(生き方を学ばせていただいた)
- ・ 地球の課題として考えていかなければならないことや、私たちにできることは何か
- ・ 今の私たち(中学3年生としての)へのアドバイスなど

ゲストの方々には、それぞれにスライドショーやビデオを始めとしていろいろな物や情報

を準備して下さり、時間が足りないくらいのお話をして下さった。生徒たちも事前に、自分たちの学級でお話して下さる方々の任地国のことについて調べていたので、質問などにも答えていただけ、大変有意義な会となった。中には、自分も将来はゲストの方々のような生き方を目指したいという感想も多く見られ、進路学習としてもいい内容であった。

今日はボリビア、エチオピアの両方の国についてたくさんのことを学んだけど、花村さんも堀先生もすごく生き生きとした姿で熱意や希望を感じました。しかし、途上国ではまだまだ貧しい人々がたくさんいて、生活保護も受けられない子どもたちは学校へも行けず、働こうとしても職がないというとても厳しい現状にいることを知りました。その中で、身よりがない子どもたちのお墓は石ころだということに一番驚きました。しかし、そんな状況の中、地雷で身体が不自由になった人でも、懸命に生きようとしていることを知り、今、水道に行けば水が出て、スイッチを入れれば電気がつくという恵まれた環境にいる私たちも、その大切さに気付いて生活していかなければいけないなあと思いました。

⑥「世界の子どもたち（開発途上国の）について知ろう」・・・2時間

研修で知り合った方から、TV番組から録画した「世界が100人の村だったら」というDVDを送っていただいた。そこには開発途上国のストリートチルドレンや少年兵、児童就労を課せられている子どもたちの様子が映し出されていた。そこで、世界にはこんな生活を強いられている仲間もいるということを知らせることをねらってこのビデオを見せた。ダビングを重ねたもので映りは悪かったが、生徒たちは食い入るようにじっと映像を見ていた。中には、「もう一度見たいので、DVDを貸してください。」と申し出る生徒もいた。それほどインパクトを強く与える映像だったと思う。

私たちと同じくらいの年齢なのに、あんなにひどい状態にある子どもたちがいることを知ってショックを受けた。ほとんど毎日、食べることに不自由せず、泊まる場所もある私たちは本当に幸せなんだと思う。けど、自分たちさえ幸せならそれでいいというものではない。同じ地球に住む仲間として、自分たちにもできることはないかを考えていきたい。

ここから、次のユニット「自分たちにできることを考え、実行に移そう」の実践を進めている。ある学級では「スマトラに愛の手を」というキャッチフレーズの下、地域を巻き込んで資源回収を行い被災地に義援金を送る活動を展開している。

7. 授業実践を通して

- できるだけ多くの授業を参加型にしたおかげで、一人一人の生徒に活躍の場が与えられ、教科の授業ではなかなか見られないような輝ける姿が多くの生徒に見られた。
- 研修を通して、いろいろな方々と知り合え、そこから得られた情報を資料に使った結果、生徒たちの興味・関心を引くような授業が構成できた。
- 外部機関との連携により、学校内だけの研修よりもより充実した授業が展開できた。
- 「国際理解学習」で考えたことが、他の「総合的な学習の時間」のテーマにおける指導計画作りにおいても応用できる面が見えてきた。

△確保できる時間数や内容について、担当する教師間で（本校では、私の企画で5学級の担任が実践にあっている）さらに検討する必要がある。また、さらに生徒たちが意欲的に学びを実感できるようなプログラムの開発にあたりたい。

△ガーナで研修させていただいたことを基に、さらにいろいろな国や地域のことについても理解を深めていきたいし、生徒たちにも広めていきたい。

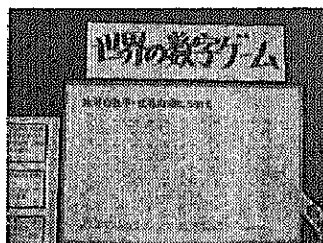
△さらにいろいろな方面で自分の世界を広めていき、自己開発を続けたい。

<参考資料・写真等>

「地球の数字」クイズの一部

- ①現在、日本は石油の100%を輸入に依存しています。が、その中で中東産油国から輸入している量は何%ぐらいでしょうか。・・・87%にもなります。
- ②世界中の国の中で、日本やアメリカのように発展している国はそんなに多くはありません。では、食料が不十分だったり、安全な水が飲めなかったり、産業や技術の発展が遅れている国は全体の何%ぐらいでしょうか。・・・78%ぐらいになります。
- ③現在の世界人口は約61億人。それでは2025年の地球の人口は何人位か。
・・・約80億人とされています。さらに50年後には90億人と予想されていますが、エネルギー消費の面から考えても、大変厳しい地球環境となりそうです。
- ④先進工業国人口は22%、開発途上国人口は78%とされています。そこで、世界全体の富を100とすると、先進工業国はその中のどれくらいを占めているか。・・・おおよそ80とされています。日本人はいろいろなものを含めると、1日1家族で平均8000円の生活をしていることになりますが、世界の12億の人々は1家族で1日120円程度の生活を強いられているのです。あなたの家族に1日120円しか支給されなかったとしたらどうでしょうか？
- ⑤世界には約6万人の肥満人がいます。一方、食料不足で餓死する人は世界中で1日に何人ぐらい？・・・1日に3万5000人、1時間では1500人という計算になります。
- ⑥日本の食糧自給率は？・・・43%ですが、このうち穀物自給率は30%です。
- ⑦日本のエネルギー自給率は？・・・22%。資源の多くを海外から輸入しています。この自給率は先進国の中では一番低い国。資源を持たない国とっていいでしょう。
- ⑧現在、1日に絶滅している生物の種の数は？（ただし細かい種とします。バラ科の・・・種といったような）・・・100種とされています。現在鳥類の11%、哺乳類の25%、魚類の34%が絶滅の危機にさらされています。
- ⑨現在世界中の子供の中で（5歳～14歳までで）働いている人口はどれくらい？・・・2億5000万人。これはアメリカの人口とほぼ同じです。その多くは学校へもいけずに働いて、その日の生活の糧にしています。このほか、読み、書き、計算ができない大人は世界に8億5000万人といるといわれています。

数値には多少の誤差が含まれるかと思われるが、「地球の課題について知る」ことの導入としてはなかなか効果的なものであった。



①地球の数字ゲーム



②新聞や広告から分析



発表の準備



③フォトランゲージの読み取り→全体交流



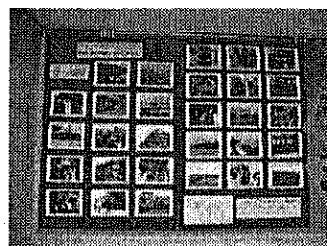
出前講座の事前学習



④出前講座



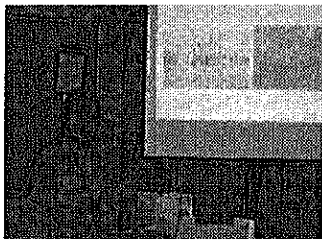
⑤出前講座



掲示によるガーナ紹介



④ガーナの紹介授業



スライドによるガーナ紹介→



カカオ豆の輸出現場視察



アクラ市のマーケット見学



協力隊員の任地視察



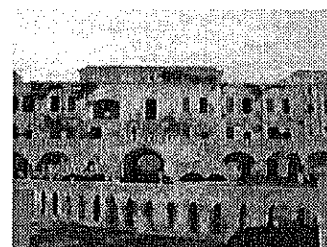
高等学校での交流



小学校での交流



保健改善プログラム視察



奴隷貿易の拠点視察

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ）実践報告書

1. タイトル ガーナを通して見る世界と日本

2. 氏名 高野 純子

学校名 愛知県立豊田東高等学校 担当教科 英語

3. 実践教科 英語一般 時間数 3

4. 対象生徒・学年 高校3年生 対象人数 23名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・ガーナを例にアフリカに対して持っているステレオタイプの視点を変える。
- ・ガーナを例に、世界と密接に繋がっている日本の姿を知る。
- ・日本が行っているODAを知り、海外援助とは何かを考える。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:ガーナを知る ねらい:導入のためガーナを知り興味を持たせること。	(1) アフリカのイメージ、ガーナについて知っていることを書かせる。 (2) パワーポイントで、ガーナについて紹介する。	(1) パワーポイント (ガーナで撮った人々の生活、学校などの写真) (2) ガーナで収集した衣装、雑貨、切手、通貨等
2 限目 テーマ:世界と日本 ねらい:ガーナのチョコレート为例に海外の国々と相互関係にある日本を知る。	(1)英語で書かれた資料をもとにガーナの貿易について読み取る。 (2)ガーナにおけるカカオ豆の出荷までをパワーポイントで説明。 (3)実際にガーナのチョコレートと日本のチョコレートを試食。 (4)チョコレートの値段の比較。	(1)地図帳 (ガーナで購入) (2)パワーポイント (ガーナで撮ったカカオ豆ができるまでの写真) (3)カカオ豆、ガーナのチョコレート、日本のチョコレート
3 限目 テーマ:海外援助とは何か。 ねらい:ODAについて簡単な説明、ガーナでのJICAの活動を紹介し、海外援助とは何かを考える。	(1)ODAについて簡単な説明。 (2) アクティビティー「貧困の輪」を通して、貧困を解決するためにどのような活動があるか考える。 (3) ガーナにおけるJICAの活動例を紹介。	(1)ODAに関するプリント (2)アクティビティー「貧困の輪」 (3)パワーポイント (ガーナで撮ったJICAの活動の写真)

授業実践

私がガーナで見聞きしたことは、JICAの活動の一部であり、依然として表層的な見方にとどまっている部分もあると思う。研修出発前の私はガーナについて何も知らず、その無知故に勝手にイメージを膨らませていたが、現地で私が見たものは、普通の人々が普通に生活を営んでいる姿であった。私は、ガーナの色彩豊かな衣服や食べもの、笑顔、物理的な貧しさとは別の、人と人とのつながりから生まれる精神的豊かさ、をぜひ生徒に伝えたいと思った。そしてガーナを考える出発点にして、日本と世界のつながりを考えるような授業を行ないたいと思い、以下のような実践をした。また学年末考査の出題範囲の一部にした。

第1限（授業プリント①）

パワーポイントを用いてガーナの写真を見せる前に、書かせたアフリカのイメージとしては「貧しい」「サバンナ」「野生の動物」などの単語、またガーナで知っていることについては「チョコレート」が多かった。

パワーポイントでは、ガーナの町や村の様子（店、看板、建物など）、学校、人々の服装などの写真を見せた。ガーナの小学校の写真を見せて、日本の学校との違いを探させたり（写真①）、簡単なクイズとして、ガーナ出身の有名人は誰か（国連事務総長コフィー・アナン氏）、鳥やスペースシャトル、ガーナに深い繋がりのある日本人は誰か（野口英世）、動物の形をした人形は何か（棺おけ）（写真②）を行った。

さらに、お金やガーナで購入した色鮮やかな衣装・布を見せたり、JICAガーナで購入したシェアバタークリームや石けんを回覧するなど、なるべく五感に訴えるようにした。

授業後の感想には、「楽しそうな国。」「色彩が豊か。」「思ったよりいい暮らしをしていたけど、鉛筆など私たちにとって当たり前のものが不足しているときいてまだ貧しいとおもった。」などと書かれていた。

第2限（授業プリント②）

ガーナで購入した高校の地図帳に様々なデータが載っていたので、そのデータをもとに英語でガーナの貿易について読み取らせた。次に、カカオ豆を配布し何であるか当てさせた後、パワーポイントでガーナにおけるカカオ豆の生産・出荷までを説明した。その後、実際にガーナのチョコレートと日本のチョコレートを試食。JICAガーナで伺った、現地高校の校長と青年海外協力隊の給料から、チョコレートの値段の比較をした。（写真③）

世界の国々と密接に結びついている私たちの生活、日本経済を生徒に伝えたかったが、まずは身近な例を、と思い、チョコレートを題材にした。地理上遠いだけに限らず、日常生活の中でまず耳にしない国、ガーナが、貿易上はとて日本とつながりが深いことは、生徒にとって驚きだった。試食は大変好評だったが、現地ではカカオ豆を生産してもチョコレートをほとんど口にすることができない状況を知り、ショックだった、と述べた生徒

もいた。

第3限（授業プリント③）

日本のODAについて簡単に説明したプリントの穴埋め問題を行い、答え合わせをしてから、アクティビティー「貧困の輪」を通して、貧困を解決するためにどのような活動があるかを考えさせた。その後、パワーポイントでガーナにおけるJICAの活動例（地域保健総合改善計画や灌漑小規模農業振興計画、小中学校理数科教育改善計画等）を紹介した。（写真④）書物に書いてあるような貧困を解決する活動が実際に行われている様子は、とても印象的だったようである。

ただし、生徒にとっては、最初に実践例を知り、そのテーマについてのイメージを持ち知識を得た後で、理論・知識を学ぶ順番にしたほうが、より考えやすかったかもしれない。生徒のなかにはアクティビティーの段階で興味を失った者もいた。

所感・反省

実際に授業を行って感じたことは、生徒にとって、写真を見て実物（衣服、食べ物、貨幣など）に触れ五感を働かせることで、テーマに対する理解がより深まり、その後理論的なことを論じる時にもイメージしやすいことである。これは、写真や実物が人の感覚に訴えやすく、書物と同じく知識を伝える役割を果たしているからだと思う。普段の授業でも、言葉の説明だけでなく、できるだけ五感を働かせるような教材を用意したいと思った。

問題は、担当教科では十分な授業時間を確保することが難しいことである。授業実践したクラスは、私だけが教える教科なので授業内容を教科担当の裁量でかなり融通できるが、それでも、受験の関係で2学期期末考査終了後の時間しか確保できなかった。担当しているほかの教科でも実施したかったが、統一テストを行っており、他の先生と教科書の進度をあわせる必要から、時間をとることができなかった。やはり「総合」のような授業で、自分で考える時間、他人と話し合う時間、振り返りの時間を十分に確保して行うとより効果的である、と感じた。

一番痛感した事は、授業の準備に十分な時間を取り、教師自身が常に新しい知識や授業の手法を学んでいく姿勢が大切であるということである。体験や経験からくる言葉には重みがあり説得力があるのは確かである。学校の文化祭で時間をいただいてガーナについて話をした時、生徒の反応はとてもよかった。（写真⑤）しかし、そこからさらに一歩進んで、たとえば海外援助とは何か、をテーマに授業を組み立てるとき、個人的な感想・体験だけでは不十分で、そのテーマに関する知識や理論的裏付けが必要になってくる。さらに必要な知識を教えるだけでなく、今までに得た知識をもとに総合的に生徒自身が考えるような授業にするために、様々な授業の手法を知る必要がある。今後も少しでもよい授業を目指して、私自身が常に学ぶ教師でありたいと思う。

引用文献

『ユニセフの開発のための教育 地球市民を育てるための実践ガイドブック』（財団法人 日本ユニセフ協会）

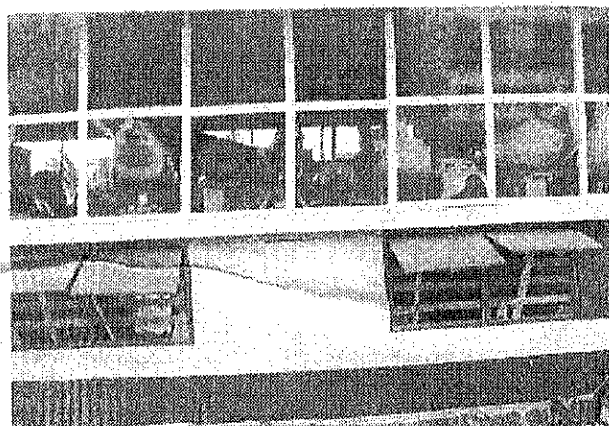
『ガーナー混乱と希望の国』高根 務 著 （アジア経済研究所）

『JICA事業紹介』『よりよい明日を、世界の人々と。』パンフレット（独立行政法人 国際協力機構）

『Macmillan Atlas for Ghana Third edition』Unimax Macmillan Senior Secondary Atlas



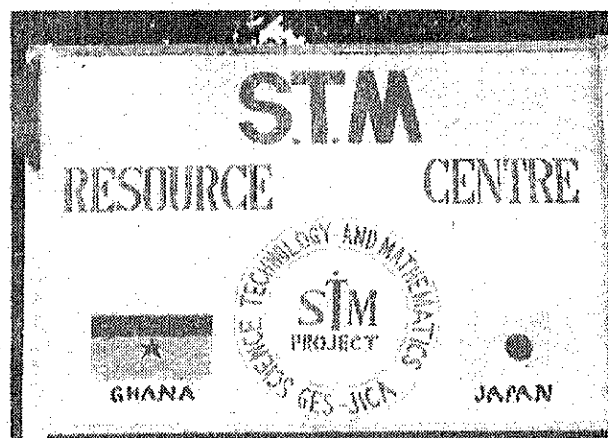
写真① 「小学校の授業」



写真② 「窓おけ」



写真③ 「ガーナのチョコレート」



写真④ 「小中学校理科教科教育改善計画」



写真⑤ 「学校の文化祭でガーナについて語る」

授業資料①

読後一紙
1 Which country is the largest of Africa?

2 What do you know about Ghana?

3 After seeing the picture of Ghana, what is your image of Ghana(Africa)?

授業資料③

III. 実践報告書

研修生としての海外への派遣は、研修生自身の成長と、派遣先の発展に貢献することです。研修生は、派遣先で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に役立てることが求められます。研修生は、派遣先で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に役立てることが求められます。

国(地区)の名称と地位	主要都市	面積(平方キロメートル)	人口(千人)
北アフリカ(北緯30度以北)	カイロ	1,000,000	1,000,000
西アフリカ(北緯10度以南、南緯10度以北)	ア克拉	1,000,000	1,000,000
東アフリカ(東経30度以西)	ナイロビ	1,000,000	1,000,000
南アフリカ(南緯10度以南)	ヨハネスブルグ	1,000,000	1,000,000

研修生は、派遣先で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に役立てることが求められます。研修生は、派遣先で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に役立てることが求められます。

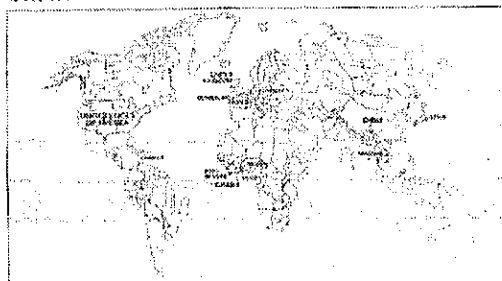
年	輸出(百万ドル)	輸入(百万ドル)	輸出(百万ドル)	輸入(百万ドル)	輸出(百万ドル)
2002年度	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
2003年度	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
2004年度	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

授業資料②-1

読後一紙

- 1 アフリカの主要な国を地図で示し、色を塗り分けよ。
- 2 アフリカの主要な国を地図で示し、色を塗り分けよ。
- 3 アフリカの主要な国を地図で示し、色を塗り分けよ。
- 4 アフリカの主要な国を地図で示し、色を塗り分けよ。
- 5 アフリカの主要な国を地図で示し、色を塗り分けよ。

Ghana Trade



Ghana's Principal Trading Partners

Table showing Ghana's principal trading partners and their share of total trade.

Key Exports of Ghana

Table showing the main export products of Ghana.

The Economic Recovery Programme

Text describing the Economic Recovery Programme and its goals.

Principal Exports and Imports, 1995



Principal Exports and Imports, 1995



Exports by Value, Total value US\$ 1812 million

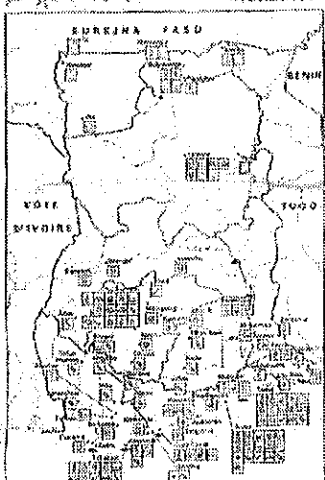
Export Category	Value (US\$ million)
Gold	1,000
Other Minerals	100
Manufactures	500
Services	200
Other	100

Imports by Value, Total value US\$ 1891 million

Import Category	Value (US\$ million)
Manufactures	1,000
Services	500
Other	300
Other Minerals	50
Gold	50

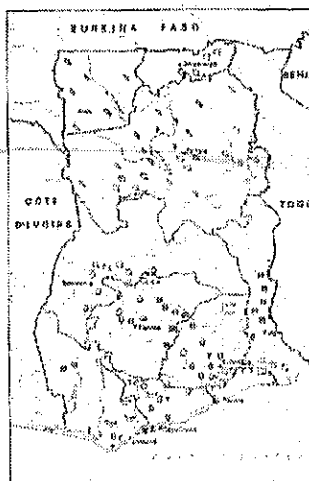
授業資料②-2

Industries and Crafts Ghana



Text describing the industrial and craft sectors in Ghana, including a list of key industries and crafts.

Cash Crops Ghana



Text describing the cash crop sector in Ghana, including a list of major cash crops and their production.

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ）実践報告書

1. タイトル ガーナを通して自分の生活をふりかえろう

2. 氏名 坂本 久美

学校名 津幡町立条南小学校

担当教科（音楽，図工以外）全教科

3. 実践教科 総合的な学習の時間

時間数 5時間

4. 対象生徒・学年 5年生

対象人数 104名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・人々はその国や地域に合った生活をしていることに気づかせる。
- ・途上国について興味をもち、自分の生活と比べることで、みんなが幸せになるために何をしたらいいか考え、じぶんにできることを実行しようとする態度を養う。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ:ガーナってどんな国?① ねらい:ガーナについて自分なりのイメージをつかむ	(1) ガーナについて聞いたり調べたりしたことを出し合う。 (2) ガーナのことを書いた話を聞いて、ガーナのイメージイラストを描く。	
2限目 テーマ:ガーナってどんな国?② ねらい:ガーナについておおまかに知る。	(1) ガーナの写真や映像，物を見たり，クイズを解いたりして、ガーナについておおまかに知る。	(1) 自作パワーポイント 通貨セディ カカオ豆 チョコレート
3限目 テーマ:ガーナってどんな国?③ ねらい:ガーナの写真や疑似体験からガーナを知る。	(1) 4人グループを作り，フォトランゲージをする。 (2) 頭に物を載せて運ぶ疑似体験をする。	(1) ガーナで撮った写真 (2) 頭に載せるためのバケツ，お盆等
4限目 テーマ:ガーナを通して自分の生活をふりかえろう ねらい:みんなが幸せになるために自分にできることを考える	(1) ガーナから学んだことを出し合う。 (2) ガーナの学習から，自分たちの生活をふりかえり，みんなが幸せになるために実行できることを出し合う。	
5限目 テーマ:青年海外協力隊って? ねらい:青年海外協力隊について知る。	(1) 青年海外協力隊についておおまかに知る。 (2) 元青年海外協力隊員のJICA北陸の柴田さんからセネガルでの活動の様子を聞く。 (3) 青年海外協力隊について質疑応答。	(1) 自作パワーポイント (2) 柴田さん自作のパワーポイント

6. 授業実践

(1) 1限目 ガーナってどんな国?①

渡航前に自分のクラスでアフリカ・ガーナについて聞いたり調べたりしたことを出し合った。アフリカ=ピラミッド、野生動物であったので、ガーナの様子が書かれた本を読み聞かせしたあとに、ガーナのイメージイラストを描かせた。本の影響でのんびりした光景を描いている子が多かった。

(2) 2限目 ガーナってどんな国?②

自作のパワーポイント①でガーナで見てきたことや聞いてきたことを紹介した。子どもたちはカカオの実が幹から直接出ていることや制服があることに驚いていた。

(3) 3限目 ガーナってどんな国?③

展開

①4人グループを作る。(8 ')

ガーナのように部族がたくさんあって言葉が通じない国だとして、しゃべらないで誕生日順にならんでみよう。

4人グループを作るよ。

新しい仲間なのでガーナのあいさつをしてみよう。

“Nice to meet you!” と言って、お互いの中指どうしてパッチンするんだよ。やってみよう。



②グループごとにフォト・ランゲージをする。(17 ')

一人1枚の写真を見てわかることをグループで交流してみよう。考える時間を1分あげるね。

グループでどんなことが出たのか、誕生日の早い人、代表でみんなに話して。



ガーナではこんなふうに頭に物をのせて歩いている人が多いと分かりました。



③ガーナの生活を疑似体験する。(15')

ガーナでは頭に物を運んでいる人を多く見かけました。この少年は12歳ですが、こうやって水を売っていました。ガーナでは子どもが水を運んだりよくお手伝いをするそうです。

なぜ頭に物をのせて歩くのだろうね。みんなも乗せて歩いてみましょう。

どうでしたか？実は頭に載せて運ぶのはガーナだけのことではないのです。日本でもしていたことがあります。しかもみんなが住んでいる津幡町の隣の内灘で。今から80年くらい前、河北潟で獲れた魚を金沢まで頭に載せて歩いて売りに行っていたそうです。



④今日のふりかえりを書く。(5')

2回目の話を聞いて、頭の上ののせて歩くのが初めて聞いてびっくりしました。でも、日本でも昔はしていたと聞いた時もびっくりしました。実際にやってみてすごくむずかしかったです。ガーナの人はビーチサンダルみたいなのをはいていました。大人の方は日本みたいな服でした。ガーナのくらしはたいへんだと思いました。日本ではじゃぐちをひねったら水が出るけど、ガーナではいど水だからです。Y. A

ガーナの人たちみたいに頭に物をのせてみたら、ぬのきれみたいなのをガーナの人のはのせてやっていたので、ぼくもやってみたらできたのでよかったです。でも、バケツに水を入れていたので重たかったです。ガーナの方はすごく首や足こしが強いと思いました。最初ガーナに行きたくないと思ったけど、やってみたら楽しいので行きたくになりました。でも、病気が心配です。T. T

(4) 4限目 ガーナを通して自分の生活をふりかえろう

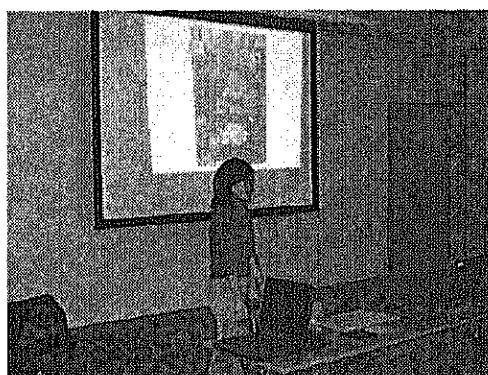
子どもたちは2限目に、ガーナは日本と比べて貧しいため、「かわいそうだ」「日本に生まれてよかった」「募金をしたらいい」という話をしていたが、ガーナの子どもたちの笑顔や道端での人々の様子などから困ったら助ければよいという話になっていった。

ぼくは、最初ガーナはまずしい国だと思っていてたくさんえん助しないといけなかったけど、実際ガーナは環境も悪くないし楽しい国だから、たいへんなことが起きたらえん助すればいいと思います。N. Y

先進国の日本では何でも自動化され、お手伝いやゲームばかりしている。でも、ガーナはお日様がのぼったら起きて日中子どもは外で友達と遊ぶか、家のお手伝いをして当たり前の生活をしている。いらぬものもなく、お日様がしずんだらねるという生活なので、必要な時に助けてあげればよい。私たちはもっと自然を大切にすればよい。ガーナのまねをすればいいと思った。自然だけでくらししている国はすごい。日本はすぐにせんざいとか水道を使ってしまう。T. K

(5) 5限目 青年海外協力隊って？

子どもたちは道徳の時間、ボランティアについて学んだ。自分ができることをするという
ことで、ごみ拾いをしたり、グループホームに訪問に行ったりして、ボランティアに興味をもっていたので、ガーナでも活躍していた青年海外協力隊の紹介をした。(自作パワーポイント②) 次に、元協力隊員の柴田さんをゲストティーチャーに迎えてお話を伺った。最後の質問コーナーでは、子ども達は協力隊に興味をもったのか、それに関する質問がたくさん出た。



セネガルにはガスも水も電気もないし、もし日本がそうなったら私達はくらししていけるのかなと思いました。たぶんつらくはなるだろうなと思います。夏は暑くてクーラーをつけるし、冬ではストーブを使うし、すごく不便になるかなあ、お風呂にも入れないしたいへん。だからこそ日本人が外国などいろいろな所に行けばいいな。しばたさんの話を聞いていい仕事だなと思いました。電気、ガス、水がない途上国へ自分から進んで行くなんて。とてもとてもやさしい人たちですごいと思いました。Y. N

7. 授業を終えて

私はこの実践を通して、子ども達に安易に途上国の援助をしようとするのではなく、人々はその国や地域に合った生活をしていることを理解し、学べることはないか、自分たちの生活はそれでいいのかふりかえってほしいと考えた。国語で「一秒が一年をこわす」という教材を学習したばかりであったので、子ども達は今の日本の暮らしは便利だけど、環境に悪い、ガーナは不便だけど、その分電気も使わず、水も大切にしている地球にやさしい生活を送っているのだと感じたようだ。また、ガーナの子供達がよくお手伝いをしてたくましく生きている様子を見て、人として困っていたらお互いに助け合うべきであるということも学んでいった。その気持ちは、中越地方で地震が発生し困っている被災者に募金と手紙を送ろうという原動力になっていった。他の教科とも関連付けて考えていくことができよかったです。

Microsoft PowerPoint - [カーナール] (とがな国)

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) スライドショー(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

1 表示(B) 印刷(P) 終了(E) ヘルプ(H) 戻る(B) 進む(F) 検索(S) 自動更新(O) 自動保存(S) 自動復元(R) 自動更新(O) 自動保存(S) 自動復元(R)

なし

66%

よく使う機能(O)

1 

2 

3 

4 

5 

6 

7 

8 

9 

10 

11 

12 

13 

14 

15 

16 

17 

18 

19 

20 



21

では、1人あたりの電子コレポート消費量が世界1の国は？
※単位は1人あたり1年あたり

1. アメリカ 2. 日本 3. ドイツ 4. カナダ

26

この計算ができますか

$$10-2+3$$


22

正解は スイス

1年間に1人あたり10kg消費する

日本は 1.0kg
アメリカは 4.0kg

27

ガーナで算数1を授業
10-2+3の計算が
まちがっていた
高校の理数科の教員は
向が「セト」だったので

- 30%
- 50%
- 70%



23

正解は
・小学校5年
・中学校3年

別解は
あるかも？

28

正解は
3番

理数科の教員で活字が5%
以上20%の生手が5%



24

あります。
オレンジと茶色の卵版です。

29

ガーナの教育は
日本とくらべて
どうだと思えますか？



25



30

ガーナの教育がよくなるよ
えん助が必要
Science,
Technology and
Mathematics
(STEM) Project
日本の協力機関
2000. 9. 1 - 2006. 2. 28

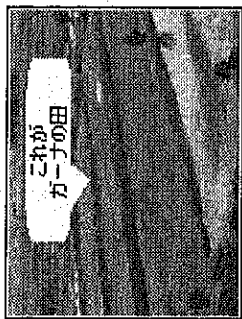
31



36

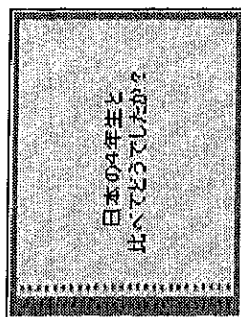


41

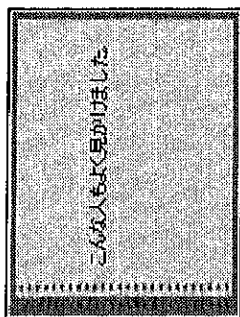


46

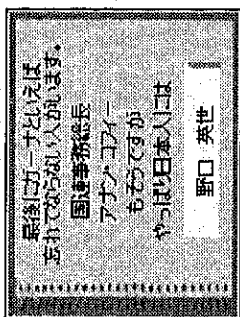
32



37



42



47

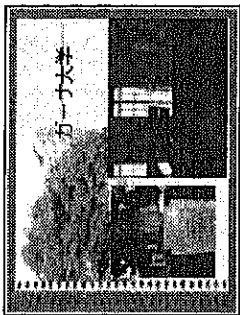
33



38

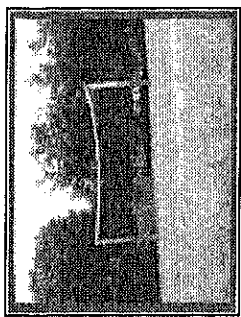


43



48

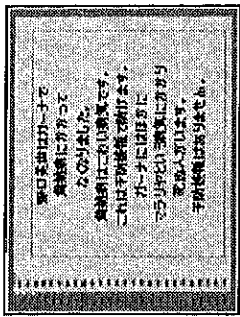
34



39

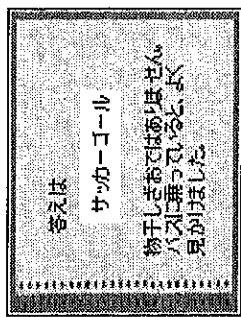


44

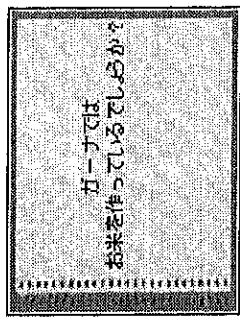


49

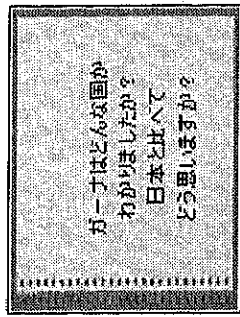
35



40



45



50

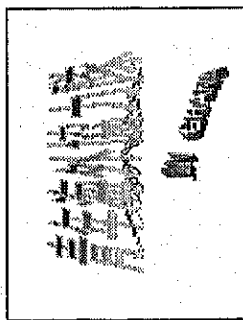
Microsoft PowerPoint - [青年海外協力隊 IN GHANA]

2

編集 挿入 表示 書式 ツール ショー スライドショー ヘルプ

66%

よく使う機能



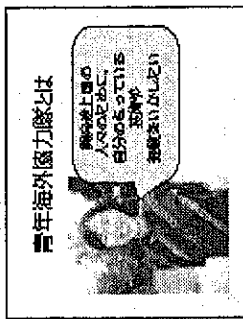
1

石川県から
これまでに
228名
河北都市からは
16名
2014年4月派遣(11月16日まで)

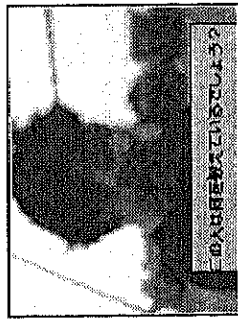
6



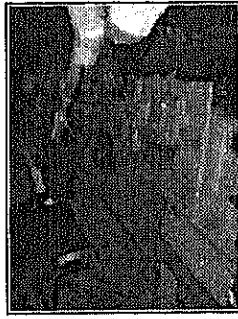
11



2



7



12

JICA(国際協力機構)
昭和40年発足
78カ国以上の開発途上国へ
およそ
24700名 が出発

3



8

世界にはわたしたちを
必要としている国が
あります
わたしたちは野球やサッカー
世界の食料やスポーツなどが
途上国とよばれる国々の発展に
必要とされています

13

茶葉は春秋の年2回
年1回は
5月～8月
第1次選別選果組合施設
おおよそ90日間の訓練
を正味として
3年間 仕付け

4



9

世界がわたしたちを
必要としてくれます
今、わたしたちができること、
しなければならぬことは
何でしょうか?

14

現地の人々と同じ言葉話し、
同じ所に住み
同じ畑を食べ
生活をともにしながら、
途上国の国づくりに協力

5



10

標準字サイズ

スライド一覧

Microsoft PowerPoint

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ共和国）実践報告書

1. タイトル ガーナから学ぶ「豊かさ」について
2. 氏名 高田正光 学校名 富山県立氷見高等学校 担当教科 理科（物理）
3. 実践教科 ホームルーム 時間数 5時間
4. 対象生徒・学年 普通科・2学年 対象人数 40名
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

次年度に進路選択を迫られている生徒たちであるが、なかなか本当に自分のやりたいこと、学びたいことを決めることができない生徒が多い。普段から生徒自身の進路意識を高めるために何か刺激を与える方法を模索していた。今回海外研修の機会を得ることができ、この経験を生かせないかと考えた。そこで、ガーナの紹介を通じ、「豊かさ」について考えることをスタートとし、それを自身の将来について深く考えるきっかけとさせたいと考え、以下の点を実践の目的とした。

- ・ 海外に目を向けることから自身の視野を広げる
- ・ 「豊かさ」について考えることから多様な価値観を受け入れられるようになる
- ・ 協力隊員の生活や活動の様子を知ることから進路選択に関する意識を高める

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ： 今海外で起こっていること ねらい：海外に興味・関心を持たせる	(1) 4～5人で班を作る。 (2) 各班で海外に関して興味・関心のあることについて話し合い調査するテーマを決める	
2 限～3 限目 テーマ：データ収集 ねらい：海外に関心をもたせ、視野を広げさせる	(1) 各班のテーマについて書籍やインターネットからデータを収集する (2) 調査内容を模造紙にまとめ、学校祭で展示発表する	・ 書籍 ・ インターネット ・ JICA 資料
4 限目 テーマ：「豊かさ」について1 ねらい：「豊かさ」について考えさせる	(1) 「豊かさ」について各自の考えをアンケート調査する (2) ガーナの生徒の様子、協力隊員の活動の様子を写真でみることか	・ アンケート ・ 現地写真

	ら自分たちの生活環境と比較させる	
5 限目 テーマ：「豊かさ」について2 ねらい：「豊かさ」について考えさせる	(1) ガーナの生徒たちの様子、協力隊員の活動の様子をビデオで見ることから自分たちの生活環境と比較させる	・現地ビデオ ・アンケート(感想)

授業の詳細

1 限目～3 限目 海外に目を向けてみよう

「豊かさ」について考えるための材料としていきなりガーナという一つの国を教材として取り上げる前に、海外全般に目を向け海外に関心をもたせ、視野を広げさせることからはじめた。学校祭を発表の良い機会とし、40名を一班3名から5名編成で十班に分け、各班でテーマを決めて、調査し、模造紙にまとめ展示発表する。テーマを決めるのに戸惑う班もあったが、ほとんどの班は自分達ですぐにテーマを決め、調査に入った。資料は図書室にある文献や情報処理室でのインターネットを利用して収集にあたった。また、テーマによっては私自身が、JICAからいただいた資料も提供した。思っていたよりも積極的に楽しそうに取り組む姿から、生徒たちは普段から海外に興味を持っていたことがわかった。

日程的に HR の時間で間に合わない班がほとんどだったため、放課後の時間を利用しながら、全ての班が学校祭当日に間に合った。お祭りの要素が多くなりがちのクラス展示・発表の中で、文化的ですばらしい展示だと学校長から全校生徒の前で講評され、生徒たちは非常に満足していた。この展示のために教室の前に飾った看板「World Caravan 23H」は今もクラスのシンボルとして教室に飾られている。

生徒たちが選んだテーマ

「世界の民族衣装」 「IROIRO ゆにゅーざっか」 「ロシア南部学校人質事件」
 「ガーナの学校」 「国名クイズ」 「伯刺西爾って〇〇な国だ！」
 「日本から世界へ」 「韓国と日本の関係」 「青年海外協力隊について」
 「北方領土」

4 限目・5 限目 ガーナから学ぶ「豊かさ」について

海外研修での様子を撮った写真・ビデオを利用して、生徒に「豊かさ」について考えさせた。方法としては写真を解説し、ときどきフォトランゲージを取り入れながら、開発途上国としてのガーナの様子と協力隊員の活躍を紹介した。また、協力隊員へのインタビュー、現地の子どもや生徒たちとの交流の様子をビデオで紹介した。自分たちの担任や同世代の生徒たちが写っ

ていることもあり興味深く観てくれた。事前に生徒自身が考える「豊かさ」とガーナについてのアンケート調査を行い、ガーナの様子を見た後の考え方の変化を調べた。

生徒の感想

- ・ 教師を養成する学校でさえ、満足に設備が整っていないようにみえた。日本はかなり恵まれていると思った。
- ・ アフリカといえば野生動物のいる大草原を思い浮かべるが、人も多く、街もあり、平和な感じがした。想像していたより貧しい国だとは思わなかった。アフリカに対する自分の認識がかなり狭いことに気がついた。
- ・ 貧しく遅れた国のように感じ、暮らすには大変そうに感じた。しかし、彼らなりに楽しく暮らしているのだからかわいそうと思うのは良くないと思った。
- ・ 子どもたちの笑顔がすてきで何にでも興味をもってとても素直そうに見えました。
- ・ ガーナの人たちはみんな同じ顔に見え、男女の区別もつきにくかった。
- ・ ガーナと日本を比べ、何が原因で差が出てくるのかと思いました。貧しそうではあるけれど、人たちは明るく楽しそうに過ごしているように見えました。
- ・ 昔奴隷売買をしていた施設をみてぞっとした。現代の日本に生まれた自分は恵まれていると思った。
- ・ 人々は幸せそうで良い国だと思った。ただ、医療にもっと力を入れれば良いと感じ、自分たちにも何かできないかと思う。
- ・ 海外に行ったことがないのでとても興味深く感じました。もっと他の国もみたくなりました。
- ・ 子どもたちは貧しそうなのにずっと笑顔でいるのを見て、心の豊かさを感じた。
- ・ 協力隊員の仕事や生活は大変だろうと思います。周りが外国人だけで日本人がいない生活というのはどういうものだろうか。それでも隊員の人が結構楽しそうに話しているのを見て、やっぱりやりがいがあるのだと思いました。

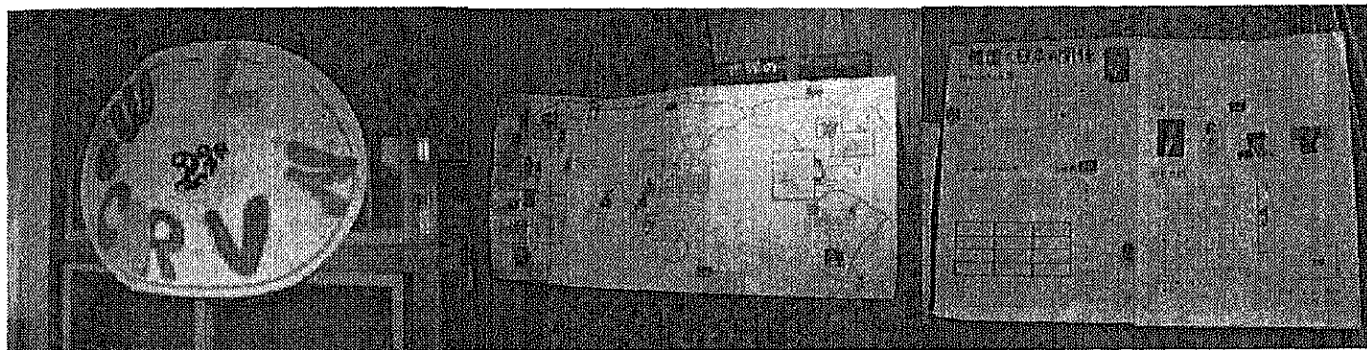
自身の所感・反省点

ワークショップや講師を呼んでの授業ができなかったこと、また十分時間をかけられなかったことに対して自身の準備不足を反省している。しかし、生徒たちがアフリカに対する自身の誤った先入観に気がついたり、もっと広く世界の国々を知りたいと思ったり、世界の中で自身ができることがないかと考えられるようになったことをとてもうれしく思う。「豊かさ」についてのアンケートから「豊かさ」とは物質的なものだけでないことに気付いてはいるが、やはり自身の生活環境のなかでは物はあった方が良いと感じるのは自然なことだと思う。ただ、それ以外にも大切なものがあることを考える機会をもち、貧しくても豊かになれることに気づいた生徒がいたことから、このことが将来に必ずプラスになるはずだと信じている。また、協力

隊員の生活と活動の紹介を通じて、やりがいのある仕事に対する憧れをもったようであり、自身の進路選択に活かしてもらいたいと思う。

資料

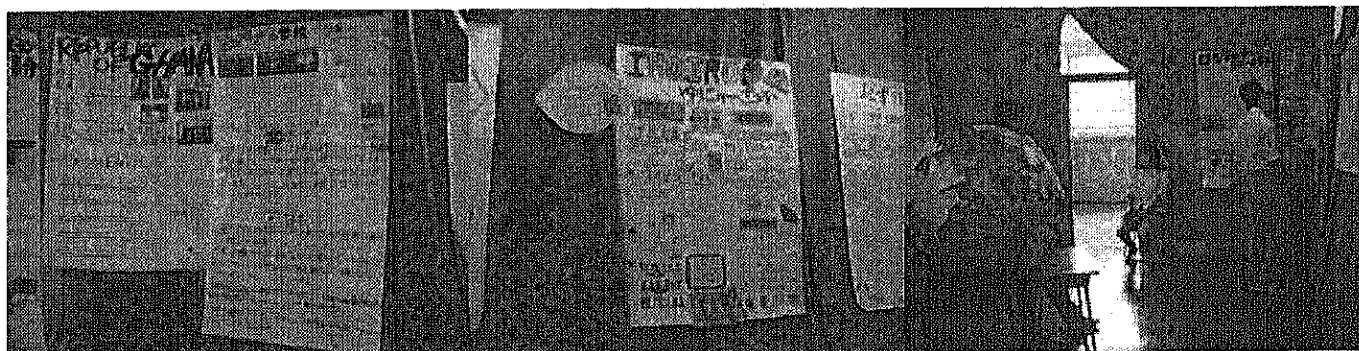
■ 展示発表の様子



看板「World Caravan 23H」

「世界の民族衣装」

「韓国と日本の関係」



「ガーナの学校」

「IROIRO ゆにゅーざっか」

展示の様子

■ 事前アンケートの結果

「豊かさ」について

1. 「豊かさ」の指標として最も大切なものはなんですか。

男子 (26名)			女子 (14名)		
1	お金	9 (34.6%)	1	心のゆとり	4 (28.6%)
2	衣食住	5 (19.2%)	2	家族	3 (21.4%)
3	心のゆとり	4 (15.4%)	3	お金	2 (14.3%)
4	平和	4 (15.4%)	4	衣食住	2 (14.3%)
5	自然	2 (7.7%)	5	平和	2 (14.3%)
6	時間のゆとり	2 (7.7%)	6	友だち	1 (7.1%)

2. 自分の「豊かさ」を100点満点で採点してください。

男子	女子
平均 65.0 点	平均 62.4 点

3. 自分にとって不足している「豊かさ」はなんですか。

男子			女子		
1	なし	6	1	心のゆとり	9
2	お金	4	2	お金	4
3	時間的ゆとり	4	3	交通手段	2
4	学力	4			
5	心のゆとり	3			
6	自然	2			
7	食	1			
8	健康	1			
9	友だち	1			

ガーナについて知っていること

1. ガーナの位置

クラスの生徒が全員地理選択であることもあって細かな位置はあいまいであったが、ほとんどの生徒が西アフリカにあることを知っていた。

2. ガーナのイメージ

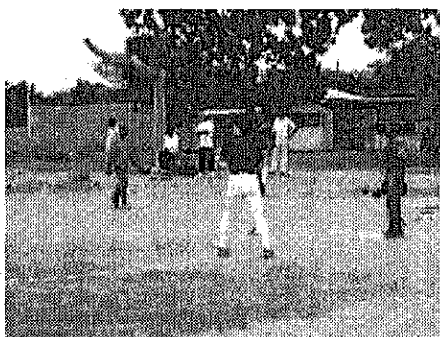
チョコレート、黒人、途上国、サッカー、暑い

3. 開発途上国のイメージ

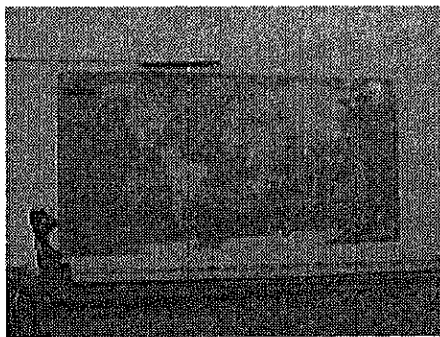
貧しい、物価が安い、暑い、開発が自然・文化保護より優先、治安が悪い、学習環境の遅れ、物が少ない、難民、生活苦、貧富の差、建物が少ない、不衛生、機械化されていない

■ ガーナ紹介に用いた写真（一部）

① 野球指導



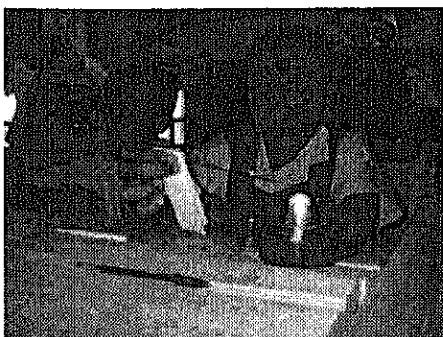
② 大規模校



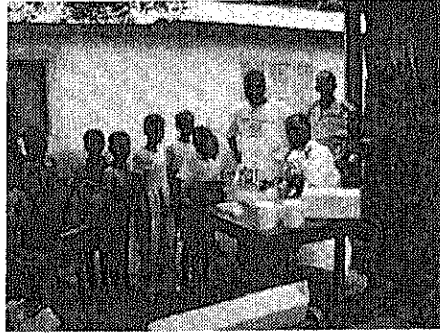
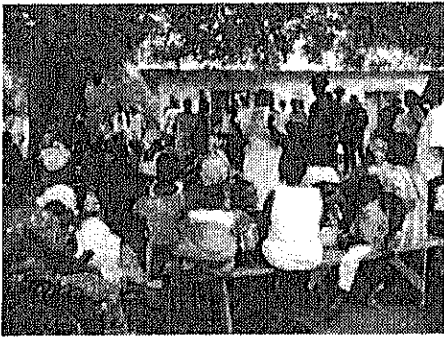
③ 小規模校



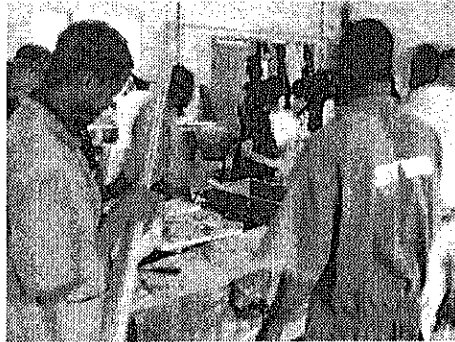
④ 教員養成校



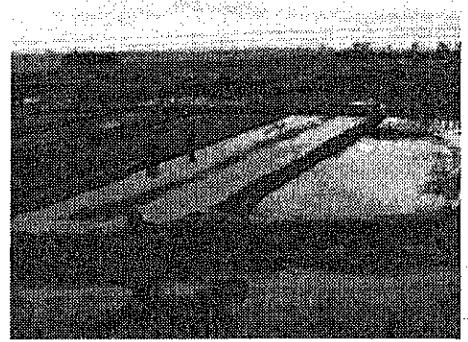
⑤ 保健衛生プログラム



⑥ ポリテク



⑦ 灌漑農業



⑧ ケープコースト



⑨ 野口英世

